

- 問1 日本の冬の気候の特徴について、次の文の空欄にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものはどれですか。「冬の日本海側では、大陸から（①）向きの季節風が吹き、日本海の上空を通過する際に（②）を蓄えることで、山地沿いを中心に大量の雪が降る。」（2019年 沖縄県公立入試 類似）
1. ①南東 ②湿った空気 2. ①北西 ②湿った空気 3. ①北西 ②乾燥した空気 4. ①南東 ②乾燥した空気
- 問2 日本列島の中央部に位置するフォッサマグナを境界として、各地の山脈や山地が連なっている方向には大きな違いがあります。フォッサマグナより東側の地域と、西側の地域における山脈の一般的な連なりの方向の組み合わせとして、正しいものはどれですか。（2026年 北海道公立入試 類似）
1. 東側：東西方向、西側：南北方向 2. 東側：南西方向、西側：北東方向 3. 東側：南北方向、西側：東西方向 4. 東側：北東方向、西側：南西方向
- 問3 日本列島の地質構造に関する説明として、フォッサマグナの特徴を正しく述べたものはどれですか。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 関東地方から九州地方までを内帯と外帯に分ける、日本最大級の断層のことである。 2. 火山活動によって噴出した溶岩が積み重なってできた、標高の高い山脈地帯のことである 3. プレーートの沈み込みによって形成された、列島に沿って分布する細長い海溝のことである。 4. 糸魚川・静岡構造線を西端とする、日本列島を地質的に南北（東西）に分断する巨大な凹地である。
- 問4 新潟県の上越市や福井県、京都府の舞鶴市などの統計に見られる、日本海側の気候に共通する特徴的なデータ傾向はどれですか。（2023年 島根県公立入試 類似）
1. 12月から2月にかけての月別降水量が、6月から8月の月別降水量と同等か、それ以上に多くなる。 2. 年間の降水量が1000mm以下と非常に少なく、1月でも平均気温が15度を超えるほど温暖である。 3. 夏の期間に降水量が集中し、冬の月別降水量は50mmを下回るほど乾燥した状態が続く。 4. 1月の平均気温が氷点下10度を下回り、年間を通じて降水量の変化がほとんど見られない。
- 問5 新潟県の魚沼地方などにおいて、標高が1000メートル前後と高い地点でありながら、地形図上では等高線の間隔が非常に広がっている場所が見られます。このような地点の地形の様子として、最も適切な説明を選んでください。（2026年 大阪府公立入試 類似）
1. 標高が低く、等高線が存在しない平野部 2. 標高が高く、切り立った崖が続く地形 3. 標高が低く、水はけの良い扇状地 4. 標高が高い場所にある、平坦な地形
- 問6 瀬戸内海に面した地域では、1月と7月の両方において降水量が少なく、年間を通じて雨が少ない傾向があります。このような気候の特色がみられる主な理由を説明したものとして、最も適切なものを選んでください。（2017年 福岡県公立入試 類似）
1. 一年を通じて勢力の強い高気圧に覆われ、上昇気流が発生しにくいため。 2. 冬の北西の季節風が湿った空気を運び、中国山地の斜面で雨を降らせるため。 3. 暖流である対馬海流の影響を強く受け、気温が上昇して乾燥するため。 4. 季節風が、中国山地や四国山地などの山地によってさえぎられるため。
- 問7 屋久島や小笠原諸島の近海を通り、日本の南岸から太平洋側に沿って北上する海流があります。この海流は、塩分濃度が高く透明度が高いという特徴を持っており、別名を「日本海流」とも呼びます。この暖流の名称として正しいものを次の中から選びなさい。（2015年 山口県公立入試 類似）
1. 対馬海流 2. 黒潮 3. リマン海流 4. 親潮
- 問8 東京のようにビルや商業施設が集中する都市部において、建物からの排熱やアスファルトの蓄熱などにより、周辺の郊外に比べて気温が島状に高くなる現象を何といいますか。（2022年 徳島県公立入試 類似）
1. エルニーニョ現象 2. ヒートアイランド現象 3. 地球温暖化 4. 砂漠化
- 問9 1950年代には山林や田畑が広がり、地形図上で等高線が密集していた丘陵地が、その後の大規模な土地の改変によって、平坦な土地に格子状の道路や多くの建物が並ぶ市街地へと変化しました。このような大規模な造成が行われた主な社会的背景として、最も適切なものはどれですか。（2021年 島根県公立入試 類似）
1. 高度経済成長期における都市部への急激な人口集中と住宅不足 2. バブル経済期における、観光客の誘致を目的としたリゾート施設の建設 3. 食料自給率を向上させるための、山地を対象とした大規模な開拓事業 4. 第一次石油危機（オイルショック）を受けた省エネルギー型都市への移行
- 問10 大分県別府市の境川河口付近において、昭和五十年代と平成二十五年の二枚の二万五千分の一地形図を比較した際に読み取ることができる、都市開発に伴う人工的な景観の変化として正しいものはどれですか。（2021年 京都府公立入試 類似）
1. 防災機能を強化するため、河口付近の住宅地を撤去して警察署や消防署が設置された 2. 食料不足を解消するために、沿岸部の埋め立て地に広大な田畑が作られた 3. 河口付近が直線的に埋め立てられ、海上に新たな橋が建設された 4. 自然環境を復元するために、既存の橋を撤去して河口を昭和以前の形状に戻した
- 問11 三重県の志摩半島など、複雑に入り組んだ海岸線を持つ地域において、真珠やカキの養殖業が盛んに行われている理由として、地形的特徴から説明したものとして最も適切なものはどれか。（2016年 香川県公立入試 類似）
1. 遠浅の砂浜が広がっており、日光が海底まで届きやすいため 2. 海岸線が複雑なことで潮の流れが非常に速くなり、海水が常に浄化されるため 3. 山地が海に迫っているため、河川から流れ込む土砂で干潟が形成されやすいため 4. 深い入り江の内部は、外海の波の影響を受けにくく穏やかであるため
- 問12 自然災害による被害が予想される区域や、避難場所・避難経路などの情報を住民に知らせるために作成された地図を何といいますか。（2020年 静岡県公立入試 類似）
1. 等高線図 2. ハザードマップ 3. 路線図 4. 地形図
- 問13 地形図において、住宅地が広がる地域のそばを河川が流れており、その周辺の標高が周囲の土地よりも低くなっている場合、防災対策として優先的に確認すべき事項として最も適切なものはどれですか。（2018年 兵庫県公立入試 類似）
1. 河川が氾濫した際の浸水の深さや、避難場所を示したハザードマップ 2. 急傾斜地崩壊危険箇所の指定状況と、土石流への備え 3. 海岸線からの距離と、津波避難タワーの設置場所 4. 震災時に大規模な火災が発生した場合の広域避難場所への経路
- 問14 2013年の統計において、養殖こんぶの収穫量は北海道（約2.5万トン）に次いで、岩手県（約9600トン）が全国2位、宮城県（約600トン）が3位となっています。この背景には、岩手県から宮城県にかけて広がる、複雑に入り組んだ地形を活用した養殖業の発展があります。この海岸地域の名称として最も適切なものはどれですか。（2018年 滋賀県公立入試 類似）
1. 湘南海岸 2. 宗谷岬 3. 九十九里浜 4. 三陸海岸

答え合わせ・解説

問1	答え 2 ①北西 ②湿った空気	日本の冬に吹く特徴的な風は、北西の季節風です。この風はもともとシベリア大陸から吹き出す冷たく乾燥した風ですが、日本海を通過する際に海面からの蒸発によって水分を補給され、湿った空気へと変わります。これが日本の高い山々にぶつかることで上昇気流が起こり、日本海側に雪を降らせる原因となります。この季節風の向きと湿度の変化を理解することが、日本の気候区分を把握する上で重要です。
問2	答え 3 東側：南北方向、西側：東西方向	日本列島の地形は、中央部にある巨大な溝状の地形であるフォッサマグナを境に、山々の並ぶ方向が変化しています。フォッサマグナよりも東側の東日本では、奥羽山脈に見られるように山地や山脈は主に南北方向に並んでいます。これに対し、フォッサマグナよりも西側の西日本では、中国山地や四国山地のように、山脈は主に東西方向に並ぶ傾向があります。この方向の違いは、日本列島の成り立ちやプレートの運動が深く関わっています。
問3	答え 4 糸魚川・静岡構造線を西端とする、日本列島を地質的に南北（東西）に分断する巨大な凹地である。	フォッサマグナは単なる「線」ではなく、古い地層の上に新しい地層が厚く堆積している「地質的な溝（領域）」を指します。この領域の西側の境界線が糸魚川・静岡構造線です。選択肢にある「内帯と外帯に分ける断層」は中央構造線の説明であり、これと混同しないよう注意が必要です。
問4	答え 1 12月から2月にかけての月別降水量が、6月から8月の月別降水量と同等か、それ以上になる。	日本海側の気候の最大の特徴は、冬季の降水量が多いことです。一般的に日本の多くの地域では梅雨や台風の影響で夏から秋にかけて降水量が増えますが、日本海側では冬の季節風による雪の影響で、12月や1月の降水量が夏場の降水量を上回る逆転現象や、年間を通じて降水量が多い傾向が見られます。
問5	答え 4 標高が高い場所にある、平坦な地形	標高は「標高点」や「等高線の数値」によって、平均海面からの高さとして示されます。一方、地形が険しいか平坦かは等高線の「間隔」で決まります。たとえ標高1000メートルという高地であっても、等高線の間隔が広ければ、そこには山頂付近に広がる平坦な土地（高原や高地など）が存在していることがわかります。
問6	答え 4 季節風が、中国山地や四国山地などの山地によってさえぎられるため。	瀬戸内の気候が年間を通じて温暖で降水量が少ないのは、北側の中国山地と南側の四国山地に挟まれているためです。夏は太平洋からの湿った南東の季節風が四国山地に、冬は日本海からの湿った北西の季節風が中国山地にさえぎられ、その山を越えた乾燥した空気が流れ込むことが、降水量の少なさにつながっています。
問7	答え 2 黒潮	日本の太平洋側を流れるこの暖流は、赤道付近からの暖かい海水を運んでくるため、周辺の気温を高く保つ役割を果たしています。プランクトンが少なく透明度が高いために、海の色が深く青黒く見えることからその名がつけられました。千島海流（親潮）とぶつかる東北地方の沖合では、潮目（潮境）を形成し、良質な漁場となります。
問8	答え 2 ヒートアイランド現象	都市部ではアスファルトやコンクリートに覆われた地面が多く、日中の熱を蓄えやすい性質があります。さらに、自動車やエアコンなどから放出される人工熱が増加し、高層ビルが風を遮ることも重なって、周辺地域よりも気温が上昇します。この温度分布を地図上で等温線として描いた際、都市部が島（アイランド）のように見えることから、この名称で呼ばれています。
問9	答え 1 高度経済成長期における都市部への急激な人口集中と住宅不足	日本では1950年代半ばから1970年代前半の高度経済成長期に、地方から都市部へと急激に人口が移動しました。これに伴う深刻な住宅不足を解消するため、都市郊外の丘陵地や山地を大規模に削り取り、平坦な土地を作り出す「造成」が行われました。地形図上では、かつての複雑な地形（密集した等高線）が、人工的に平らで整然とした街並みへと劇的に変化していることが確認できます。
問10	答え 3 河口付近が直線的に埋め立てられ、海上に新たな橋が建設された	都市の発展に伴い、限られた平地を拡張するために沿岸部の埋め立てが行われることがあります。大分県別府市の事例では、昭和五十年代には自然な形状で海に開かれていた河口が、平成二十五年までには直線的に埋め立てられ、さらにその海上に新しい橋が建設されるなど、交通網の整備と土地利用の高度化が同時に進んだことを地形図から読み取ることができます。
問11	答え 4 深い入り江の内部は、外海の波の影響を受けにくく穏やかであるため	リアス海岸はその複雑な形状から、外海の荒波が入り江の奥まで届きにくいという特徴があります。この波の静かな水域（穏やかな海面）を利用して、真珠、カキ、ワカメなどの養殖いかだを設置するのに非常に適した環境となっています。
問12	答え 2 ハザードマップ	災害が発生した際の被害予測（浸水する範囲や土砂災害の危険性など）と、避難に関する情報を1つの地図にまとめたものです。住民が事前に地域の危険度を把握し、迅速な避難行動につなげる役割を持っています。
問13	答え 1 河川が氾濫した際の浸水の深さや、避難場所を示したハザードマップ	周囲より標高が低い場所にある住宅地は、大雨の際に河川の氾濫による浸水被害を受けるリスクが非常に高いです。そのため、事前にどの程度の深さまで浸水する可能性があるか、どの方向に避難すべきかをハザードマップで確認しておくことが重要です。土砂災害や津波は、それぞれ傾斜地や沿岸部特有の災害であるため、低い平地における河川防災とは区別して考える必要があります。
問14	答え 4 三陸海岸	岩手県から宮城県北部にかけての三陸海岸は、日本を代表するリアス海岸として知られています。深い入り江が連続するこの地形は、外洋の荒波を遮るため波が穏やかであり、こんぶやわかめ、カキといった海藻や魚介類の養殖に非常に適しています。統計においても、この地形的利点を活かした岩手県や宮城県が高い生産量を示しています。